

12 富嶽茶園 松岡映丘

一幅

昭和三年（一九二八）

絹本着色

一八九・五×二〇〇・二

松岡映丘（二八八一―一九三八）らしい群青と緑青を基調とした鮮やかな彩色で、手前に茶園、背後に富士、その間に静岡の街並みや田園が広がる情景が描かれている。昭和三年（一九二八）に大札を祝って静岡県茶業組合より献上された作品であり、構図としては駿河湾越

しに三保の松原とともに富士を描く、雪舟から続く名所絵としての富士図の定型を受け継いでいると言えよう。その一方で、山々の間には大井川を渡る鉄橋や黒煙をあげて走る機関車、そして駿河湾には蒸気船が描き込まれ、この絵が現実の風景に即したものであることが理解される。

制作にあたって映丘は、駿河湾沿いを踏査し写生を繰り返したという。画面の手前、青々とした茶畑で茶摘みに勤しむ女性達の実感のこもった描写にも実地写

生の成果が見て取れる。名所絵のイメージと現実の景物が画面の中で入り交じり、それらをすべて包み込むように雄大な富士がそびえる本図は、映丘の風景画の一つの到達点を示した完成度の高い作品と言えよう。

兵庫に生まれた松岡映丘は、上京すると住吉派の山名貫義に入門した後、東京美術学校日本画科で絵を学び、以降官展を中心に華々しい活躍を重ねた。東京美術学校で教鞭をとり、新興大和絵会や国画院などでも多くの弟子を育てたことでも知られる。





- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan